

平成24年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	人文社会諸科学の成果を活用した教員養成系大学型初年次教育の構築—「社会科入門演習」の授業実践の改善と批判的検討を中心に—
------	--

研究代表者

氏名 小嶋茂稔	所属 人文科学講座歴史学分野	職名 准教授
------------	-------------------	-----------

研究分担者

氏名 田中比呂志・及川英二郎 椿真智子・中村康子	所属 歴史学分野 地理学分野	職名 教授・准教授 教授・講師
荒井洋一・井ノ口哲也 佐藤雄一郎・河合正雄	哲学・倫理学分野 法学政治学分野・社会科教室	教授・准教授 准教授・特任講師
高数学・伊藤由希子 苫米地伸	経済学分野 社会学分野	准教授 准教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

- 今年度、「社会科入門演習」を担当した研究分担者は、各自が担当した授業を通して、それぞれの専門領域での内容が、大学における初年次教育にどの程度活用できるかについて検討した。具体的には、田中比呂志は東アジア近現代史を中心に、及川英二郎は日本近現代を中心に、中村康子は地理学の諸領域を中心に、井ノ口哲也は中国思想史(特に儒学)を中心に、荒井洋一は西洋中世哲学を中心に、河合正雄は憲法学ならびに法律学を中心に、高数学は経済学を中心に、苫米地伸は社会学を中心に、それぞれ検討した。個々の専門領域で取り扱われる内容は、もちろんそのままでは大学における初年次教育の素材として用いるには専門的に過ぎるものの、適切な素材を選択し、教授方法を工夫することによって、十分初年次教育において活用できることが確かめられた。
- 今年度は「社会科入門演習」を担当しなかった、研究代表者・小嶋茂稔、研究分担者・椿真智子、佐藤雄一郎、伊藤由希子は、かつて担当した授業内容を吟味しなおしつつ、次年度以降、「社会科入門演習」を担当することを想定して、個々の専門領域の内容を、大学における「初年次教育」に活用する方策について検討した。
- 2014年度カリキュラムから全学的に「初年次教育」が導入されることとなった。研究代表者の小嶋が、FD研修会で、「社会科入門演習」導入の経緯や、授業運営の実際について講演を行い、社会科教室ならびに本研究での蓄積を全学に公開することが出来た。また、研究代表者の小嶋がカリキュラム改訂特別委員会に名を連ねていることもあり、これまでの研究成果を、新カリキュラムに反映させていくことが期待される。
- 大学における「初年次教育」では、1年生を対象に、入学まもない時期に、高等学校までの学習とは異なる、大学ならではの研究・学術の世界に積極的に目を見開かせることが目的の一つとなろう。その見地からは、社会科を構成する各専門領域の内容を、授業内容を構成する際に適度に盛り込んでいくことは一定の効果が見込まれよう。しかし、「初年次教育」には、その他にも、そもそも大学での勉学や生活に「慣れ」させるといふ、別の目的も存在する。授業担当者のそれぞれの「個性」を発揮できる授業を構成していく一方で、最低限、大学として必要とする「共通内容」とそのための教員間の「共通理解」を構築していく必要があることも確かめられた。社会科という独自の領域に限定されるかもしれないが、教員の個々の専門領域を活用した「初年次教育」は十分に可能であるが、大学全体としての「初年次教育」を導入する以上は、最低限必要な共通内容について、別途、研究・協議・作成していく必要が認められた。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]  
**※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。**  
 なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

研究成果については、2014(平成26)年度実施カリキュラム「初年次ゼミ」を、社会科教室として内容構成していく際に反映させる。